

2012年度 多摩学 最終発表

江戸幕府における貿易と海防の変遷 ～浦賀奉行所を題材に～

2012年12月8日
中川英之 萬屋政佳 小菅慧 小山明信

研究目的

浦賀が大きな役割を果たした時期

- 安土桃山時代から鎖国体制成立期
- ロシア船が出没しペリーが来航する19世紀前半の幕末期

江戸幕府が変化に対応した結果・・・

役割の変遷

貿易

海防

➡ 浦賀がどのような役割を果たしていった？

結論

- 浦賀は両期ともに、ヨーロッパとアメリカとの関係の最前線に位置。海外の変化が起こるにつれ、浦賀の役割も変化していった。
- 浦賀と横浜の役割が分離。浦賀横浜圏の関係が生まれる。
浦賀：海防
横浜：貿易
- 江戸の海防拠点への移行が進むと、海防意識が強まり始める。
→ 八王子・浦賀圏のパイプが強くなる。
→ 国防勢力としての八王子千人同心が、蝦夷地探索や横浜警備を行う。絹の道や浜街道(生糸)による物流網が生まれる。

	I期 1580～1639	II期 1639～1792	III期 1792～1854	IV期 1854～1868
期	貿易港構想断念期	国内廻船の管理港を果たす期	江戸の海防拠点への移行期	海防と貿易の分離棲み分け期
海外主要国	明・朝鮮(カトリック国) ・スペイン ・ポルトガル(プロテスタント) ・オランダ ・イギリス	清(明末期を含む) オランダ 朝鮮 琉球	清 朝鮮 オランダ 琉球(新規参入国) ロシア アメリカ イギリス フランス	アメリカ イギリス ロシア フランス オランダ 清 朝鮮
江戸幕府対応	四口体制の確立 鎖国	正徳新令による銀の流出の抑制	蝦夷地探索 無二念打ち払い令(1825) 天保の薪水給与令(1842)	開国 横浜警備
浦賀奉行所	北条水軍の拠点 走水 ウイリアム・アダムス	下田から浦賀に移転	異国船の対応	国内廻船の関所・貿易 浦賀警備

I期

海外

スペイン
ポルトガル
オランダ
イギリス
清
朝鮮

III期

海外

新規参入国
ロシア
アメリカ
イギリス
フランス

I期とIII・IV期の比較 (江戸幕府の対応)

江戸幕府の対応

I期
(1580～1639)

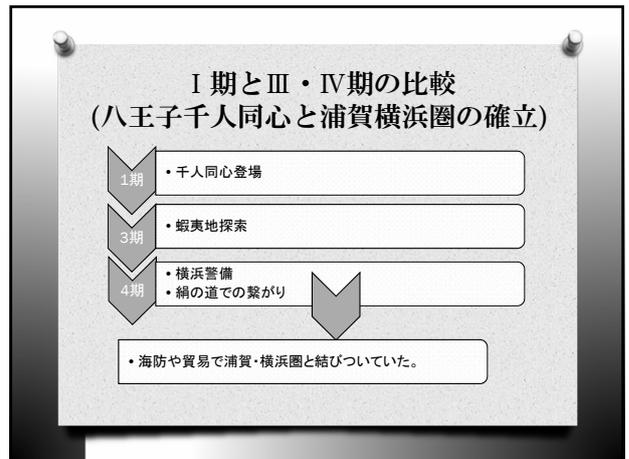
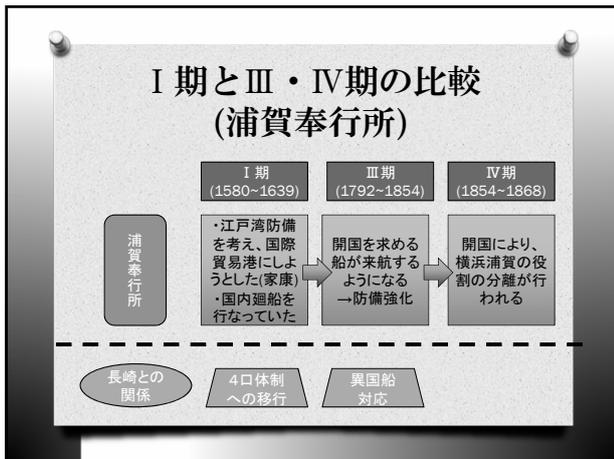
・4口体制の始まりと鎖国
・オランダ風説書

III期
(1792～1854)

・台場の設置
・薪水給与
・無二念打ち払い令

IV期
(1854～1868)

・尊皇攘夷派の阻止
・貿易管理



参考文献

- 『八王子千人同心史』 八王子市教育委員会 1992/3/31
- 『「絹の道」のはなし』 馬場喜信著 かたくら書店 新書 2001/3/24
- 『全集 日本の歴史 第9巻「鎖国という外交」』 ロナルド・トビ著 小学館 2008
- 『全集 日本の歴史 第12巻「開国への道」』 平川新著 小学館 2008
- 『幕末海防史の研究 - 全国的に見た日本の海防態勢』 原剛著 名著出版 1988

ご清聴 ありがとうございました!